

# 都医 NEWS

Vol. 676

東京都医師会 定例記者会見	01
底流/地区医師会長連絡協議会報告	
東京消防庁救急相談センター	02
みどりの広場 ほか	03
ふれあいポスト	04
都医からのお知らせ ほか	05
地区医師会長からの一言	06

発行所 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 1部77円



カラフルな傘アート (明治神宮野球場)

## 東京都医師会 定例記者会見

## 感染状況と今後の感染対策



尾崎会長

尾崎治夫会長は「3回目接種は発症や重症化の予防に効果があり、感染者数の多い20代・30代の方にはぜひ接種をお願いしたい。また、4回目接種の対象者に医療・介護従事者は含まれていないが、感染の最前線に対応しているので、対象者となるよう要望したい」と述べた。

### 感染状況と医療提供体制

猪口正孝副会長は、「感染状況は拡大傾向にはないが、引き続き警戒が必要である。医療提供体制についても、東京ルール適用件数はいまだ高い数字で推移している状況

### ポストコロナの感染対策

尾崎治夫会長は「3回目接種は発症や重症化の予防に効果があり、感染者数の多い20代・30代の方にはぜひ接種をお願いしたい。また、4回目接種の対象者に医療・介護従事者は含まれていないが、感染の最前線に対応しているので、対象者となるよう要望したい」と述べた。



角田副会長

角田徹副会長は「3回目のワクチン接種については、4月に薬事承認された米ノババックス社の組み換えタンパクワクチンは、感染予防に十分有効で副反応も少ないと言われている。mRNAワクチンに不安のある方、2回目接種までに高熱などの副反応が出て3回目の接種をためらっている方は、ぜひ選択肢として検討して欲しい」と呼びかけた。

### 第7波に向けて高年齢者施設の視点から

川上二恵理事は、「子どもの成長を考えると、マスクの着用について検討していく必要がある。従来は、家庭や地域の高齢者などを守るために、マスクを着用することで感染対策を行っていたが、現在では高齢者の8割が



猪口副会長

### 3回目のワクチン接種

黒瀬敏事事は、東京都医師会が過去1年に遡って実施した抗原定性検査の信頼性に関する調査の中間結果を報告し、「抗原定性検査は『迅速・簡便・安価が利点だが、信頼性は今一つ』と思われるが、本調査により年齢や自覚症状の有無、ワクチンの接種歴、自覚症状発症日からの経過日数などによらず、臨床的にPCR検査との一致率が高いことが示唆された。このことから、抗原定性検査は医療機関での診療だけではなく、市中における自己検査でも有用であり、さまざまな場面でより積極的に使用することが推奨される」と述べた。



川上理事

川上二恵理事は、「子どもの成長を考えると、マスクの着用について検討していく必要がある。従来は、家庭や地域の高齢者などを守るために、マスクを着用することで感染対策を行っていたが、現在では高齢者の8割が

### 屋外でのマスク着用の見直しを

黒瀬敏事事は、東京都医師会が過去1年に遡って実施した抗原定性検査の信頼性に関する調査の中間結果を報告し、「抗原定性検査は『迅速・簡便・安価が利点だが、信頼性は今一つ』と思われるが、本調査により年齢や自覚症状の有無、ワクチンの接種歴、自覚症状発症日からの経過日数などによらず、臨床的にPCR検査との一致率が高いことが示唆された。このことから、抗原定性検査は医療機関での診療だけではなく、市中における自己検査でも有用であり、さまざまな場面でより積極的に使用することが推奨される」と述べた。



平川副会長

### 抗原定性検査の活用を

黒瀬敏事事は、東京都医師会が過去1年に遡って実施した抗原定性検査の信頼性に関する調査の中間結果を報告し、「抗原定性検査は『迅速・簡便・安価が利点だが、信頼性は今一つ』と思われるが、本調査により年齢や自覚症状の有無、ワクチンの接種歴、自覚症状発症日からの経過日数などによらず、臨床的にPCR検査との一致率が高いことが示唆された。このことから、抗原定性検査は医療機関での診療だけではなく、市中における自己検査でも有用であり、さまざまな場面でより積極的に使用することが推奨される」と述べた。



黒瀬理事

3回目接種を完了している。このことを踏まえ、感染の再拡大は最小限にとどめて医療への負担は減らすという考えを基本として、段階的に感染対策を解除していくことを提案したい。マスクを外すことに不安を感じる方もいるため、同調圧力を生まないように留意しながら、ソーシャルディスタンスを保つことができる屋外では、マスクを外して活動しても良いのではないかと語った。



# 底流

## 知的障害における福祉と医療の連携について

知的障害のある方に安心した身体医療を提供するためには何が必要か。

2021年度の内閣府障害者白書によると、在宅で生活する知的障害のある方の概数は1995年には約29万7000人であったのに対し、2016年には約96万2000人にまで増加している。地域の移行の推進や障害理解の普及に伴う療育手帳取得者の増加が関係していると考えられる。また、知的障害のある方の高齢化が進んでいる一方で、平均寿命については総人口と比較して短いと言われている。我が国には本件に関する詳細な研究や統計が乏しい

いる。予防医療と早期診断・早期治療の確保が早急の課題である。しかし、知的障害のある方への身体医療の提供体制には課題が多い。根底には、現場や学術分野においていまだに医療と福祉の連携が立ち遅れていることも一因にあると考察する。また社会のさまざまなインフラが、利用する者に知的障害がないことを前提として存在するため、障害のある方にとってアクセス困難なものが多い。医療資源についても然りである。知的障害のある方にとって、自治体による定期健診やがん検診の受診が困難であることが以前から指摘されている。一般の外来診療においても、医療者の障害福祉に対する理解が足りない、待ち時間が長く十分な診療時間が確保できない、強度行動障害のある方に適切な対応ができない、聴覚や視覚の過敏性への配慮がないなど、十分なバリアフリー化は実現していない。ノーマライゼーションという言葉が我が国でも使われるようになって久しいが、医療の対応は遅れていると言わざるを得ない。都市部ではビル内の診療所が多く、建物内の他者への配慮、限られたスペースと改築困難な事情を考えると、医療機関ごとに対応を求めることは難しい。したがって、地域ごとに知的障害のある方の受け皿を新たに確保する必要がある。まずは健診について特化した時間、あるいは場所を設けるとよいのではないだろうか。杉並区のある病院では、障害者健診の枠を設け、胃がん検診をはじめ各種検診を実施している。障害のある方とその家族が安心して希望する生活を獲得することができない限り、地域共生社会の実現に向けたスタートラインは残念ながらまだ遠いと言わざるを得ない。(西田伸一)

## 地区医師会長連絡協議会報告

令和4年5月20日(金)

尾崎治夫会長は挨拶のなかで現在の新型コロナウイルスの感染状況に触れ、「5月の連休明けに感染者数が増加するのではないかと懸念されていたが、現状では目立った増加傾向は見られない。今後供給量が多い経口治療薬が出てくれば、更に良い状況になると思う。これから数カ月

状況を注視していきたい」と述べた。

◎都医からの伝達事項  
 (1) 新型コロナウイルス感染症について  
 新型コロナウイルス追加接種(4回目接種)の体制確保について、厚生労働省より接種対象者や3回目接種からの接種間隔等についての方針が示されたので、情報提供を行った。

また、東京都が休日の小児診療を促進するために実施している「休日に小児の診療を行う診療・検査医療機関の診療の促進事業」についても情報提供を行った。

(2) 高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会「実地医家における高齢免許保有者への指導ガイド作成のためのアンケート調査」の

実施について  
 東京都医師会では標記委員会を設置し、高齢運転者等による交通事故防止対策や健康寿命の延伸と運転の関係、高齢運転者を支援するための運転環境の整備等について検討している。このたび、実地医家における高齢免許保有者への指導ガイドを作成するにあたり、高齢運転者の運転継続や免許返納に対する医師の対応等について、WEBアンケートを実施するので、協力をお願いしたい。

(3) フレイルサポート医研修の開催について  
 東京都医師会では、東京都健康長寿医療センターと協働して、高齢者のフレイル予防を目的としたフレイルサポート医研修を6月19日(日)午10時から東京都医師会館で開催する。各地区医師会から

(4) 今般のオミクロン株の流行を踏まえた高齢者施設等の施設内療養体制の支援強化について  
 東京都では、高齢者施設等に対する医療支援強化として、高齢者・障害者の入所施設を対象に「専用相談窓口の設置」「即応支援チームの派遣」「感染拡大予防に関するオンライン研修」の3つの取り組みを開始したので協力を願う。

1名の受講者を募集するので、参加をお願いする。

(5) 城北ブロック  
 (6) 多摩ブロック  
 (7) 大学ブロック

◎出席者による意見交換  
 (1) 整骨院発行の診断証明書について  
 (2) オンライン資格確認の導入に係る回線整備について  
 (練馬区医師会)

◎その他  
 (1) 整骨院発行の診断証明書について  
 (2) オンライン資格確認の導入に係る回線整備について  
 (練馬区医師会)

◎地区医師会からの報告  
 (1) 中央ブロック  
 (2) 東東ブロック  
 (3) 城西ブロック  
 (4) 城南ブロック

◎地区医師会からの報告  
 (1) 中央ブロック  
 (2) 東東ブロック  
 (3) 城西ブロック  
 (4) 城南ブロック

都医ニュース2号(昭和36年2月発行)をお持ちの方はご一報ください  
 東京都医師会 広報学術課  
 ☎03-3294-8821

都医 HP・Eメール  
 ■ ホームページアドレス  
<https://www.tokyo.med.or.jp>  
 ■ Eメールアドレス  
[jimu@tokyo.med.or.jp](mailto:jimu@tokyo.med.or.jp)

### 東京消防庁救急相談センター

#### 開設15年 受付件数増加と応答率低下

本年6月1日を以て、救急相談センターは開設15年の節目を迎えました。当初より受付件数は1日約700件を数えましたが、そのうちの救急相談件数は70件そこそこであり、9割方が医療機関案内でした。今では1日1,000件近くの受付数のうち救急相談が65%を占めており、その数は開設当初の約10倍になりました。スタッフの増員、対応スペースの拡張、運用フローの定期的な見直し、そして何よりも会員の皆様のご尽力の賜物であり、改めて深謝申し上げます。

さて近年、当センター受付件数は、新型コロナウイルス感染症の急増の時期を除けば、完全な収束をみないその流行下での「相談控え」に関連すると考えられる減少傾向を認めていました。しかし、いわゆる本年初頭の第6波のピークを過ぎてからは、明らかに救急相談件数も医療機関案内件数も増加に転じています。人々が感染状況を鑑みて受療を控えなくなってきたことを表しているのかもしれない。

引き続き相談者の緊急度に応じた適時の受療を支援するために、皆様の一層のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 東京消防庁救急相談センター受付状況 (速報値)

[令和4年1月1日から令和4年4月30日まで]

	累計	前年件数	前年同時期増減(増減比)	受付件数に占める割合	前年同時期	一日あたりの件数
総着信件数	147,324	112,280	35,044( 31.2%)			1,227.7
受付件数	135,056	108,882	26,174( 24.0%)			1,125.5
救急相談	81,796	72,325	9,471( 13.1%)	60.6%	66.4%	681.6
救急要請	13,251	11,678	1,573( 13.5%)	(※1)16.2%	(※1)16.1%	110.4
医療機関案内	52,676	36,288	16,388( 45.2%)	39.0%	33.3%	439.0
相談前救急要請	253	239	14( 5.9%)	0.2%	0.2%	2.1
かけ直し依頼	331	28	303(1082.1%)	0.2%	0.0%	2.8
その他(苦情)	0	2	-2( 0.0%)	0.0%	0.0%	0.0
応答率(※2)	91.7%	97.0%	-5.3%			

(※1) 救急相談件数に占める割合  
 (※2) 応答率とは、総着信件数に占める受付件数の割合(応答率=受付件数÷総着信件数(%))

看護師への医師助言	9,841	5,735	4,106 (71.6%)	82.0
通信員への医師助言	4,101	2,304	1,797 (78.0%)	34.2



171 **みどりの広場**

**脳神経外科に到来した  
低侵襲化の波**

**血管内治療と内視鏡頭蓋底手術**

帝京大学医学部附属病院  
脳神経外科 主任教授

辛正廣



近年、脳神経外科領域での技術革新は目覚ましく、特に治療を受ける患者の負担軽減を意味する「低侵襲化」が注目を集めている。脳卒中の分野では、カテーテルを使った血管内治療の進歩により、従来は有効な治療法が見つからなかった急性期脳梗塞や、開頭手術でしか治療できなかった「低侵襲化」の波は脳腫瘍の

手術にも及んでおり、カテーテルに代わって内視鏡を利用することで「体の中から」手術を行う技術が開発され、かつては治療困難とされていたさまざまな腫瘍の治療が安全に行われるようになってきている。脳神経外科では、以前から頭蓋底手術に内視鏡を使用し、頭蓋底の

の視認性に関する問題を一気に解決したのである。内視鏡下で行う手術では、鼻腔や脳室、脳槽といった本来備わっている空洞を經由して、脳深部の病変に安全に到達することができる。小さな入り口からでも脳深部に侵入し病変を観察することで、広い視野のもとでの手術が可能となる。腫瘍も周辺の解剖構造もすべてしっかりと確認できるので、手術自体が容易となり、手術時間の短縮と成績の向上が同時に達成されている。また手術に際し、頭皮の切開を必要としないか小さな

外から病変部を観察して手術が行われている。脳深部にいる術野を拡大して視認しながら行われるため、手術に伴い脳の限られた隙間を利用したり、脳を牽引して隙間を広げたりして術野を確保する必要がある。脳腫瘍の中でも、頭蓋底から発生する髄膜腫や下垂体腺腫、神経鞘腫などの頭蓋底腫瘍の手術ではこの「隙間」よりも明らかに病変の方が大きく、顕微鏡下で行う限られた視野のもとでの手術は手技自体が難しく、習得するのに多くの経験を要する。内視鏡の導入は、こうした術野

切開で済むため美容的にも優れており、患者の早期社会復帰を更に後押しする結果となっている。術者教育という面からも、顕微鏡下の手術より習得が早く、特にモニターを見ながら操作することに慣れている「VRゲーム世代」の外科医には最適な手術法であるといえる。技術革新の浸透により、「外科医の裁量」などといったものは既に過去の遺物となりつつある。代わって、新しいセンスを持った若い世代の脳神経外科医が活躍できる時代が確実に到来している。

4年前から、長女の希望もあり犬を飼い始めました。当初は、犬を飼うのは小学生の時以来だし、家族の一員として一緒に生活できるか不安でしたが、飼いだしたらあまりの可愛さに犬のいない生活が考えられなくなってしまうほど、ただ、あまりに可愛すぎて、

犬を自宅に一人ぼっちにするのが可哀想になり、コ罗纳禍ということもあって、家族で外食する機会がほとんどなくなってしまいました。犬と一緒に食事できる場所は、通常は屋外のテラス席が多く、天候に左右されてしまいます。またカフェが多く、屋内でしかしたしつけができていない。今紹介する自由が丘の「リトルモナ」は、犬と一緒に美味しい食事を取れる場所はほとんどありませんでした。

店内で吠えないなどの条件が必要ですが、犬連れのお客さんも多く、安心して愛犬と一緒にゆっくりと食事を楽しむことができます。おすすめは、渡り蟹のトマトクリームソースパスタです。濃厚な蟹のソースがよく、パスタに絡み美味しくていただけます。残ったソースをパンにたっぷりつければワインにもピッタリです。ワインの種類も多く、ドルチェも揃っています。愛犬と一緒に食事に限らず、少人数のパーティーや会食にも適していると思います。大好きな先生はぜひ訪れてみてください。

(田園調布医師会・春野洋)



渡り蟹のトマトクリームソースパスタ

**自由が丘・リトルモナ**

愛犬と楽しめる  
本格イタリアン

**趣味の散歩**



リトルモナ (little mona)  
目黒区自由が丘2-16-19  
メープル1F (自由が丘駅から徒歩4分)

**内視鏡下の手術**

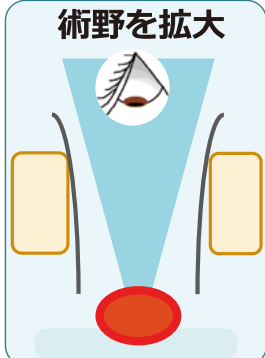
**広い術野**



安全かつ効果的な手術を実現

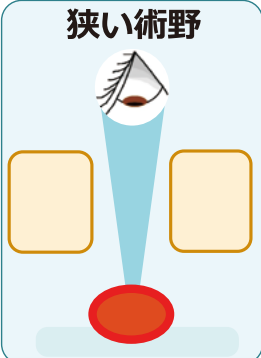
**顕微鏡下の手術**

**術野を拡大**



→ 合併症の心配

**狭い術野**



→ 視野が限られる

安全性・効果が不安定

**知ってますか?**

**核戦争防止国際医師会議 (IPPNW)**

核戦争を医療関係者の立場から防止する活動を行う国際組織。米国のラウンとソ連のチャゾフによって提唱され、1981年より世界会議・地域会議を開催、80力国以上20万人ほどの医師が参加しており、1985年にノーベル平和賞を受賞している。

**掲示板**

**健康食品・サプリ [成分]のすべて (第7版)**  
ナチュラルメディスン・データベース 日本対応版

日本医師会  
日本歯科医師会  
日本薬剤師会 総監修



本書は、米国の「Natural Medicines」を翻訳・編集した第7版である。網羅的に収集された健康食品やサプリメントに関する全世界の学術論文に対して系統的にレビューを行った1200以上の素材・成分について、安全性や有効性、3012件の医薬品との相互作用等の情報を掲載している。COVID-19関連情報も掲載しており、厚生労働省より「信頼できる健康食品情報源」として紹介され、公的な機関や研究所などでも活用されている。

本書は、医師が診療現場で健康食品に関する質問を受けた際に、端的に答えられるよう工夫されており、巻末には症状や病態から素材・成分の有効性を調べられる索引も付されている。また、日々の診療に簡便に役立つように、オンライン版も販売されている。

発行▼同文書院 価格▼1万7800円(税込)



# 心れあいポスト



各地区会報から

中野区医師会

松山友彦

## 暇な午後の密かな楽しみ

最近、午後の診察をしていると、しばしば上空を飛ぶ飛行機の音に気づきます。患者さんが途切れたときなど、音のする方に目を凝らすと、北の方角から南に向かう飛行機が結構な大きさで見えます。意外と低く飛んでいることに多少驚きました。別に飛彦くんでも空美ちゃん(鉄道好きの鉄ちゃんに対して飛行機好きをこう呼ぶそうです)でもないのですが、なぜか持っているフライトレーダーなる航空路のわかるアプリでチェックしてみました。すると、羽田空港に着陸する数本ある航空路のうち、まさに中野上空を通過する航路がありました。

羽田空港に進入する航空路は、かなり厳格に規定されていて、着陸する滑走路、風向き、時間帯などにより何種類かあるようです。そのうち中野上空を通過するのは、南風時の15時から19時に運用されるもので、オリンピックで増加する国際線に対応するため令和2年から供用されているようです。中野区の上空では高度およそ1,000mあたりを降下中ら

しく、ことのほか大きく見えるのはそのためでした。この辺りのことは中野区のホームページに詳しく書かれており、さすが行政と唸った次第です。

せっかく新設した航路ですが、コロナ禍のためインバウンド客をはじめ国内の旅行も制限され、航空機需要の減少により宝の持ち腐れ状態です。あまり頻繁ですと騒音が気になってしまいますが、手が空いた時などに先ほどのフライトレーダーで通過する飛行機の種類、どこから飛んで来たかなどをチェックするのはちょっと楽しいことを白状しておきます。断じて飛彦ではありませんが…。

コロナ禍が落ち着いて気兼ねなく旅行ができるようになるまで今暫くは我慢ですが、次に搭乗する機会があれば自宅を上から見てみたいものです。

(中野区医師会新聞 2021年4月 No.646より抜粋)

玉川医師会

望月弘嗣

## アナログレコード

アナログレコードが世界的に流行っていることをご存じですか？

ブームの理由は、音質と、音楽との向き合い方にあるようです。

レコードに記録されている音はCDよりも表現力が豊かで、実際の演奏に近いと言われていています。レコードを聴いたことのある世代には、アナログ音には独特の温かみやツヤ、臨場感があることを感覚的に理解できると思います。また、チリチリというレコード独特のノイズも魅力だという方もいらっしゃるでしょう。

レコードのもう一つの特徴は、手間がかかるということです。大きなプレーヤーが必要ですし、レコードをジャケットから取り出してセットして、裏面を再生するときにはレコードをひっくり返し、しかも盤面に傷がつかないように慎重に取り扱わなければならない、と、ちょっと挙

げただけでもいろいろと必要です。登録してスマホで聴くだけのストリーミングサービスとは明らかに異なる点です。ネガティブな要素に聞こえますが、これらはきちんと音楽を聞く態勢を整えて、音楽と正面から向き合える良さにつながり、それに魅力を感じる人もいます。

現代のデジタルサウンドは、手軽に音楽を楽しんだり、何かをしながらBGMとして聞いたりするにはとても便利ですが、そのかわりに失ってしまった良さもあるように思います。デジタル化が進んでいる世の中ですが、レコード以外にも「アナログ」の価値が見直されることがこれからも続くかもしれません。

(玉医ニュース No.670 令和4年2・3月合併号から抜粋)



### 紫陽花

紫陽花が咲き、街中が彩られて綺麗です。

紫陽花の花言葉には「辛抱強さ」があります。

花期が長いことが由来のようです。

私たちも、もう少し耐えてコロナ禍を乗り切りましょう。

武蔵野市医師会 藤田光裕

### 都医ニュース表紙の写真を募集

本ニュースは毎月、季節に合った東京の写真を表紙に掲載しております。その表紙写真に、先生が撮影した写真を応募してみませんか？ 都内の写真で、季節感のあるものをお願いします。本会広報委員会が掲載を決定いたします。なお、掲載された写真は、本会のホームページにも掲載させていただきます。

応募規定

デジタルカメラやスマートフォンで撮影をした  
600万画素以上(横3000×縦2000ピクセル以上)の  
デジタルデータ  
プリントサイズは、横235mm×縦137.5mm以上

応募・問い合わせ先

〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台 2-5  
東京都医師会 広報学術課 ☎03-3294-8821(代)  
kouhou@tokyo.med.or.jp



# 無声拝聴

## 音楽と平和

2021年10月、作曲家ショパンの出身国であるポーランドの首都ワルシャワで、第18回シヨパン国際ピアノ・コンクールが開催された。コロナ禍で国内はコンサートの中止が相次ぎ、海外の演奏家も来日が困難な厳しい状況が続くなか、反田恭平さんが2位、小林愛実さんが4位に入賞し、大きな明るい話題となった。日本人の2位入賞は、内田光子さん以来約50年ぶりの快挙である。

文化や芸術は、感染症や災害、国際情勢の変化、戦争などの危機で社会に余裕がなくなると、どうしてもその影響を強く受けってしまう傾向にある。今回のロシアのウクライナへの侵攻により、

り、ポーランドは多くの難民を受け入れ、ワルシャワの状況は一変していることだろう。欧州では急進的な政治勢力が躍進するなど、不安定さが増しているとも聞く。

この約10年で、東日本大震災やコロナ禍、ウクライナ侵攻などのブラック・スワンの変化がいくつも生じた。大きな危機のときには、医師に新しい役割が期待され求められる場面も生じてきた。変化に適応するための努力を継続することが我々には必要であろうし、またコロナも戦争も終息し、早く平和が訪れ、文化や芸術も安心して楽しめるようになることを願ってやまない。

(木山信明)

## 動物由来の新興・再興感染症

感染症は古来より幾度となく流行が繰り返され、人類は悩まされてきた。現在直面している新型コロナウイルス感染症の脅威の多様性は前代未聞で、発生から2年以上が経過しているが、今なお収束のめどが立たず、甚大な健康被害をもたらし、また、社会・経済に多大な影響を及ぼし続けている。

パンデミックとして世界を蹂躪している新型コロナウイルス感染症以外に、近年、我が国でも話題になったSARS、MERS、鳥インフルエンザ、エボラウイルス感染症、ニパウイルス感染症、ジカウイルス感染症、デング熱などの新興・再興感染症が相次いで発生している。これらの感染症は、もともとは風土病のように流行しても地域に留まっていた。しかし、野生動物が棲む領域までヒトの活動範囲が広がると、もともと動物が持っている未知の病原体がヒトに侵入した場合、免疫を獲得しておらず、治療法も確立していないために致命的な疾病が発生する可能性が高い。

新興・再興感染症の発生・伝播に関与するいくつかの複雑な要因には、農地開発や森林伐採、ダム建設、灌漑整備といった開発による生態系の変化、気候変動、温暖化、人口の増加と高齢化、都市化、公衆衛生対策の不備、グローバル化、国境を越えた人々の移動や国際貿易の増加、野生生物の取引と消費、野生獣肉の食習慣や宗教的信条などの社会的および文化的要素が挙げられる。また、これら以外にも微生物因子が挙げられる。構造が単純なウイルスは素早く遺伝子の変異を獲得し、進化が早く、抗生物質も効かない厄介なものである。新興・再興感染症が人間にもたらす脅威に対処するために、ヒト-動物-環境・生態の相互作用に関して、専門家の協同的かつ持続的な研究と対応の必要性が高まっている。

(文責：池田忠生)

# 感染症豆知識

東京都医師会  
感染症予防検討委員会

## 都医からのお知らせ INFORMATION

### 第455回 国際治療談話会 例会「排泄にかかわる話題」

**問合せ先** (公財)日本国際医学協会 事務局  
東京都世田谷区上馬 1-15-3 MK三軒茶屋ビル3F  
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599  
E-mail: [imsj@imsj.or.jp](mailto:imsj@imsj.or.jp) URL: <https://www.imsj.or.jp/>

**日時**▶ 7月21日(木) 18時30分~20時30分 **形式**▶ WEB講演  
**開会挨拶**▶ 石橋健一((公財)日本国際医学協会 理事長)  
**座長**▶ 近藤太郎((公財)日本国際医学協会 常務理事)  
**(第1部)**  
**講演 I**▶ 「腹部X線から推測する慢性便秘症の病態とその治療-世相の影響-」水上健(国立病院機構久里浜医療センター内視鏡検診センター 内視鏡部長)  
**講演 II**▶ 「頻尿と尿失禁の治療」巴 ひかる(東京女子医科大学附属足立医療センター泌尿器科骨盤底機能再建診療部 教授)  
**(第2部)**  
**感想**▶ 「ウクライナ戦争と今後の世界」畔蒜泰助((公財)笹川平和財団 主任研究員)  
**取得単位**▶ 日医生涯教育制度1単位(CC: 54, 65)  
**申込方法**▶ 上記QRコードまたは当協会ホームページ(<https://www.imsj.or.jp/>)をご覧ください。  
**視聴**▶ 無料



### 第39回 糖尿病Up・Date 賢島セミナー 「ハイブリッド化した糖尿病治療薬への期待 -良好な血糖コントロールとbeyond glucose control-」

**問合せ先** 中部ろうさい病院 堀田 饒 名古屋市港区港明 1-10-6  
TEL: 052-652-5511(内線7174) FAX: 052-652-5623

**日時**▶ 8月27日(土) 14時~22時、28日(日) 8時20分~12時  
**会場**▶ 志摩観光ホテル ザ クラシック(三重県志摩市阿児町神明731)  
**(8月27日)**  
**セミナー I**▶ 「糖尿病への対応のアップ・デート-血糖コントロールは如何にあるべきか-」  
**セミナー II**▶ 「薬物療法からみた糖尿病の管理・治療のアップ・デート-血糖コントロールは如何にあるべきか-」  
**(8月28日)**  
**セミナー III**▶ 「糖尿病にみられる合併症と併発症への対応のアップ・デート-血糖コントロールは如何にあるべきか-」  
**取得単位**▶ 日医生涯教育制度7.5単位申請中(CC: 7, 9, 10, 73, 76)  
**申込方法**▶ 氏名、職種、医籍登録番号、所属、住所、電話番号を明記のうえ、FAXにてお申し込みください。  
**定員**▶ 50名 **参加費**▶ 50,000円

## 医師国保からのお知らせ

### 医師国保では組合員の健康保持増進のための 様々な保健事業を行っています。

- 特定健診・特定保健指導の実施(従業員や家族の自家健診が可能です)
- 人間ドック受診結果(特定健診部分)のデータ提出への助成
- 乳房エコー検診費用の助成
- 脳血管健康診断(脳ドック)費用の助成
- 契約宿泊施設等の利用に際しての助成や優待

詳しい内容、申請方法等は当組合ホームページをご覧ください  
[www.tokyo-ishikokuho.or.jp](http://www.tokyo-ishikokuho.or.jp)

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6431(総務課)

## 令和4年度 労災診療費算定基準・地方公務員災害補償制度 自賠責保険診療費算定基準の説明会

**主 催**▶ 公益社団法人東京都医師会/東京労働局/地方公務員災害補償基金東京都支部  
一般社団法人日本損害保険協会関東支部  
損害保険料率算出機構自賠責損害調査センター首都圏本部  
東京労働保険医療協会

**日 時**▶ 7月27日(水) 13時30分~16時10分(開場13時)  
**会 場**▶ 東京都医師会館 2階 講堂(千代田区神田駿河台2-5)  
**対 象 者**▶ 医療機関の請求事務担当者(定員150名)  
**演 題**▶ 「労災診療費算定基準について」(60分)  
「地方公務員災害補償制度について」(35分)  
「自賠責保険診療費算定基準について」(40分)

**参加費**▶ 無料  
**参加方式**▶ 事前に「東京都医師会研修申込システム」より登録・申込み  
URL: <https://study.tokyo.med.or.jp/publish/Login>

**問合せ**▶ (公社)東京都医師会 事業部 医療保険課 電話: 03-3294-8838

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、現時点では受講人数を制限して開催予定ですが、今後の感染状況によって受講人数等の変更や急遽実施開催を中止する可能性もございます。



医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医<sup>ニュース</sup>NEWS

2022

Vol.  
676

## 地区医師会長からの一言

# 生活を支える医療を目指して

渋谷区医師会長 内藤誠二



令和3年6月に渋谷区医師会長を拝命しました、内藤誠二と申します。よろしくお願いいたします。

私は、大学病院および連携病院で約10年間消化器外科医として修練し、平成2年に父の病院に戻り副院長になってからも、外科医として手術に取り組んでいました。しかし、自称「地域密着型病院」と言いながら、大病院で行っている治療と同じ医療が提供できることを売りにしていることに疑問を感じていました。そのような時期に、当時浅草医師会長だった故野中博先生が訪問診療の話をしているということを知り、とても感銘を受け、当院でも訪問診療を開始しました。また、特に平成25年6月より1期だけ東京都医師会で介護・福祉と多職種連携の担当理事を務めた際には、東京都医師会長に就任されていた故野中先生の「生活を支える医療」と「地域包括ケアシステム」という言葉が頭に焼き付きました。そのなかで、地域の中小病院の役割として特に超高齢社会を迎えている現在、地域の高齢者の生活を支える医療の提供が重要と認識してきました。そのためには、かかりつけ医や訪問診療医として頑張っている先生方とはもちろん、介護や福祉との連携をスムーズにすることが重要だと気づかされました。

会員の先生方もそれぞれの専門を生かして医療を提供しているわけですが、医師会としては1つのネットワークとして地域に医療を提供しています。例えば、特定健診や各種がん検診などの健康を維持する医療がありますが、一方では学校医や園医、産業医、

かかりつけ医は生活を支える役割をしています。私は医師会の一歩の目的はネットワークとして地域の健康や生活を守ることであると信じています。

しかし、ここ2年間は新型コロナウイルス感染症の流行ですべての医療がコロナ対策に向かってしまいました。ワクチン接種や発熱・検査外来、宿泊療養のサポート、在宅療養の支援等、日常を支えるためにまずコロナ対応があり、感染者はコロナ病棟へ入院・治療はもちろんでしたが、発熱の有無に限らず一般の入院治療の際にも必ずコロナを念頭に置いての対応が必要になりました。しかし、それでも院内や施設内でのクラスター発生は多くみられました。5月現在、陽性患者の新規発生は減少してきており、社会では経済活動のため人が動き始めていますが、病院や施設では院内への新型コロナウイルスの持ち込みを予防するため、現在でも職員への行動制限をお願いしている状態です。

2025年問題といった高齢者や認知症の方に対する対応が後回しになっていた感は否定できませんが、さすがにいつまでもコロナを言い訳にしているわけにはいかず、地域医療本来の「生活を支える医療」を正面から見据えていかななくてはなりません。本年度は、一時停止していた地域包括支援センターとの連携強化や認知症対応などが早速進み始めています。コロナありきの活動になりますが、本年度は医師会本来の「生活を支える医療」に力を入れていきたいと思っております。